



しまねの社会教育だより



ものづくりで
つながりづくりにゃ



島根県観光キャラクター「しまねっこ」島根連託第9158号

photo 安来市 求ム!地域の救世主~交通安全「道路横断旗入れ」を作ろう~

特集

みんなで取り組むしまねの人づくりを考える
~「みんなでチャレンジ!
しまねを創る人づくり支援事業」の実際から~

2026.
2月号

contents

- しまねの社会教育人材がともに学び、つながりを広げています!
- 学びがチカラに!! [川本町立川本中学校 石田 卓也さん]
- わがまちの社会教育の実践紹介 [松江市・吉賀町]
- 研修紹介レポート「みんなでトライ!公民館等職員必要課題研修」

みんなで取り組む しまねの人づくりを考える

～「みんなでチャレンジ!しまねを創る人づくり支援事業」の実際から～

今年度、島根県では新たにネットワークを生かした支援事業「みんなでチャレンジ!しまねを創る人づくり支援事業」(以下「みんなチャレンジ事業」)がスタートしました。そこで、今回は本事業の概要に加え、採択した市町村での実際の取組を紹介し、その中から見えてきた“みんなで人づくりに取り組むことよさやポイント”について考えていきます。

どんな事業なの?教えて!橋津調整監!

島根県教育庁社会教育課
調整監
橋津 健一



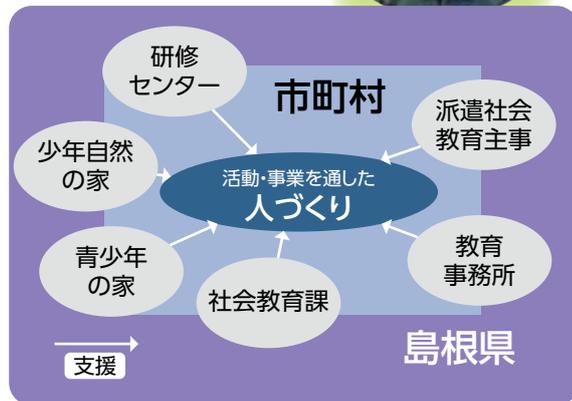
Q. この事業の特徴を一言で教えてください

A. 「オールしまね」で人づくりを支えるという点です。今回は右の図のように、県内の多くの社会教育主事が伴走支援し、市町村での人づくりの中心となる人材の育成を進めます。

Q. どうして「オールしまね」なんですか?

A. 本県には東西に2つの社会教育研修センターと2つの青少年社会教育施設(少年自然の家、青少年の家)があり、各教育事務所にも社会教育主事がいます。さらに県内全19市町村に教員籍の社会教育主事を派遣しています。この強固なネットワークは本県の社会教育のつよみです。このつよみを生かすべく、「オールしまね」で市町村を支援していきます。

具体的には、以下3つの支援型を活用し、多くの人に関わり、人づくりが推進されることを願っています。



【みんなチャレンジ事業イメージ図】

型	地域課題解決支援型	体験活動支援型	「ふるさと活動」支援型
支援	地域課題解決に主体的に立ち向かっていく人づくりに取り組む市町村を支援	子どもの体験活動を実施するとともに、体験活動を広く周知して、活動の機会を提供する市町村を支援	子どもたちが主体となって行う※「ふるさと活動」を支えるとともに、その活動を支える体制づくりに取り組む市町村を支援
実施主体	公民館等 	公民館等 	「ふるさと活動」取組団体 
関係機関	・社会教育研修センター ・派遣社会教育主事	・青少年社会教育施設 ・派遣社会教育主事	・社会教育研修センター ・派遣社会教育主事

※ふるさと活動:「ひと・もの・こと」の地域資源をいかして、地域で子どもたちが主体的・自発的に行う活動

この事業を活用し、地域で活動を実践された人のお話を聞きました

海士町

「高校生と住民がつながり育つ～防災事業への参画を通して～」

事業の種 **地区住民の自主防災意識** 大切にしたい関わり **企画運営/目的共有/任せる/楽しい雰囲気**
事業の主人公 **高校生/区長と区役員** 生まれたワクワク **地域の一員という自覚/新たなつながり** 



海士町教育委員会
共育コーディネーター
銭谷 郁 さん

私は「みんなチャレンジ事業」を活用し、東部社会教育研修センターの研修支援を受けました。そこで、いろいろな方と対話し、視野が広がり、自信をもって事業展開できました。具体的には「広げよう防災の環」と題し、地区住民を対象に防災に関する事業を実施しました。地区内に寮がある高校の寮生と地域の核となる区長と区役員の方に協力していただきました。

スタッフ顔合わせでは、世代の違う高校生と区長たちが打ち解けやすいように、カードを使った自己紹介をするなど楽しい雰囲気を大切にしました。仕事内容は、ねらいや分担を示し、細かい内容は各自に任せました。すると、高校生は展示ブースや炊き出しメニューなど積極的にアイデアを出してくれました。区長からは消防

訓練の提案もあり、消防署との連携を進めてくれました。関西で被災経験のある役員の方は展示物作成や広報に取り組んでくれました。それぞれが自主的に動き出し、次第にライングループでも活発にやり取りが行われるようになりました。

当日は多くの参加者があり、大盛況。緊張していた高校生も次第に地区住民と打ち解け、笑顔で関わっていました。高校生からは「信じてもらえてうれしかった」「地域の一員として何ができるか考えたい」、区長たちからは「今後も続けよう」といった声が聞かれました。この活動を通して、関わった人たちに主体性が生まれたように思います。今後も継続してこのような事業へ取り組み、防災の環、そこに关わる人の環を広げていきたいです。



【炊き出しコーナーの様子】

【5館共催で実現！飯南町みんなで支える子どもの体験活動】



活動内容 カヌー体験&自然体験

活動の対象者 小学生/中学生

活動の目的 子どもの体験活動の充実

活動の協力者 公民館長/公民館主事/カヌーインストラクター

飯南町来島公民館
主事
加藤 郁海 さん

町内全公民館共催事業として、子どもたちを対象に7月にカヌー体験活動、8月に自然体験活動を実施しました。事業実施にあたって、「みんチャレ事業」を活用し、サン・レイク職員の方による「安全管理研修」を受けました。館長や主事、教育委員会の方など、活動当日の運営に関わるスタッフ全員が研修を受けることで、安全管理上のポイントについて共通理解することができました。「具体的なお話で、とても勉強になった。」「安全面について複数で確認、共有することが大切だと思った。」などの感想がありました。当日は、どちらの活動でも、いきいきと体験活動に取り組む子どもたちの姿があり、事故無く安全に活動を終えることができました。

今回、共催で実施したことにより、見守り体制が整い、よりダイナミックな体験活動ができました。また、町内の全地域の子どもの対象としたことにより、多くの児童生徒が参加し、単館事業では味わえない異年齢交流や大人数での活動も展開できました。さらに、全館共催にすることで、公民館のチームワークもさらに良くなったと思います。これからも、各館で連携しながら、子どもたちの体験活動を支えていきます。



【カヌー体験の様子】

【みんなの田んぼ～食を通じた交流の場づくり～】

事業の種 耕作放棄地

大切にしたい関わり 話し合い場の設定/気持ちづくり

事業の主人公 高校生/地域の大人

生まれたワクワク 「諦めたくない!」心の動き/つながり



食堂などの交流の場づくりを目指した高校生5人の「やりたい」からスタートした事業です。地域の大人には高校生の成長と地域のつながりづくりが目的であることを共有した上で農作業のけん引役をお願いしました。代掻き（泥遊び）、田植え、草取りの活動では、高校生活との両立の難しさや想定と現実の違いなどから、投げやりな言葉が出て、目の輝きを失う場面もありましたが、そんな時には役割の交代など、5人で補い合いながら進んでいきました。また、対話の場を持ち、「高校生が頑張っているから手伝おうと思った」など、地域の大人の正直な思いを聞くことで高校生にも変化が見られ、それぞれが自分にできること（SNSへの投稿やハゼ干し準備など）をするようになりました。

津和野町青原公民館
主事
諏訪 かのり さん

そして、お米も膨らみ稲刈りへの期待も膨らんだ頃・・・イノシシが侵入！地域の大人が監視カメラの設置など度重なる防御対策をとりましたが、再・再・再度の侵入で撃沈されました。最後の活動は、監視カメラによるイノシシが米を食べる映像視聴と米のついていない稲刈りでした。意気消沈かと思いきや、大人からは「来年もやるならば、もっと～」、高校生からは「大人のズゴさが分かった、ここで諦めるのは悔しい」との声が上がり、両者の思いが一致しました。時と場を共有することで、お互いが作用し合う効果を見ることができました。通常の事業では田んぼの成功、コメの収量や作業の丁寧さを要求されてしまいますが、今回は主体が高校生であること、高校生の心の動きを中心に事業を展開することができました。まだ高校生たちは「やりたいこと」が明確になった段階で、やっとスタート地点に立ったところです。今後は、この実践研修の結果を土台として、高校生と地域の直接のつながりを紡いでいく努力をしていきます。



【田植えの様子】

みんなで人づくりに取り組むことのよさ

人が育ち 地域が育つ

これらの実践では、スタッフも参加者にも主催者にも意識変容がありました。その蓄積はリーダーを育て、つながりを育み、地域力の醸成につながります。

多様な力で課題解決

これらの実践では、多様な人がつながり、楽しんで関わることで特色ある活動が生まれています。それぞれの「できること」を持ち寄り、企画運営することで課題解決にもつながっています。

みんなで人づくりに取り組むときのポイント

Point 1 巻き込みの工夫

- ・安心して話せる場
- ・目的の共有
- ・活動の整理
- ・任せる/役割分担



Point 2 楽しさを大切に

- ・“やりたい”と思える魅力的な活動
⇒連帯感/自己有用感
- ・打合せの工夫



Point 3 気付きを促す

- ・専門的知識を得る関係者の学びの場
⇒共通理解
- ・大人の本気



今回は各町の取組から見えてきた“みんなで人づくりに取り組むことのよさやポイント”を整理しました。世代や立場を超え、みんなが関わり合うことで、人が育ち、つながりが生まれ、地域が育っていきます。今後も「オールしまね」で人づくりを進めていきましょう。

しまねの社会教育人材がともに

社会教育関係者、社会教育に興味のある方々を対象に、研修や意見交換の機会を設け、社会教育の充実やネットワークの強化を図っています。今回は、各教育事務所の社会教育スタッフ企画幹に活動の様子を聞きました。

松江

教育事務所管内

高校生演劇グループ『あめいろ』の取組から 自分たちにできることを考える

松江教育事務所管内の社会教育士等研修会は、みんなで和やかに話をし、今の地域をもっと良くしたい、盛り上げたいという人たちがつながる(環)研修、略して『松江わわわ(和・話・環)研修』と呼んでいます。令和4年から始まり7回目の研修会は、高校生が中心となって行う演劇グループ『あめいろ』に関わっている竹本莉乃さん・渡部千晶さんに「なぜ高校生が地域のヒト・モノ・コトを題材に演劇をしようと思ったのか?」について話をしてもらいました。



高校生は、脚本・演出すべて自分たちで行います。また、演劇をつくる中でその地域の方々に取材をし、地域の人たちのあたたかさに触れ、地域の人の思いを受け取りながら、高校生は演劇を完成させていきます。令和4年は東出雲の干し柿、令和5年は加賀の潜戸と小泉八雲、令和6年は松江城と堀尾吉晴を題材にしました。令和7年は準備の年、令和8年は東出雲町出身の歌舞伎役者市川女寅(めとら)と聞いています。どんな演劇になるかとても楽しみです。

出雲

教育事務所管内

「つながりづくり」が地域の未来を創造する

出雲地区の研修会では、講師として小田圭介氏を迎え、講演会やワークショップを行いました。前年度から講師を小田さんに依頼していたので事前の打合せを十分に行き当日を迎えることができました。今回の研修会は、参加対象者を社会教育主事・士に限らず社会教育関係者としたことで幅広い職種の者が集まることから、研修会のキーワードを『つながりづくり』として学ぶことにしました。小田さん自身もつながりづくりを意識した実践を行っておられ、自身の経験に基づいた講話やファシリテートをしていただくことができました。



講演では、大人も子どもも肩肘張らず、ただ同じ時間を共有することで生まれる絆でも教育のみならず地域の未来を支える土台になることをお話されました。

また、頓原中学校学校運営協議会「頓中サロン」の取組、飯南町公民館連絡協議会による「5館共催事業」の取組についても事例紹介することができました。

学校や世代を超えて人と人がゆるやかにつながることで、地域全体の教育環境や暮らしの質を高めることができるということを研修から学ぶことができました。

浜田

教育事務所管内

「公民館は可能性の塊！」 吉賀町柿木公民館の実践から学ぶ

「公民館は可能性の塊!!!」～地域を耕し、人をつなげ、住民から愛される場づくり～と題して、吉賀町柿木公民館 主事 円山洋輔さんに実践発表をしていただきました。成功事例のみではなく、そこに至るまでのプロセスにおける思いや願い、公民館のミッション、思うように進まなかった点など、たくさんの実践を紹介していただきました。円山さんが社会教育活動を行う上で大事にしておられる「楽しく学ぶ」「こっそりこっそり変える」といった考え方なども、具体事例をもとに詳しくうかがうことができました。

後半の意見交換では、終始和やかな雰囲気の中、参加者同士でお互いのテーマに沿って対話活動を行いました。自分自身の普段の取組を振り返ったり、お互いに価値づけを行ったりしながら、明るい展望が抱ける意見交換となりました。



【参加者の声】

しまねの社会教育で大切にしていることを本当に丁寧に、こつこつ実践しておられる様子が聞けました。表面的な成果ではなく、その下の草の根的な部分を一つ一つ、ご縁を大切にしつつ、それらをつないでいるからこそその成果だということがよく分かりました。

学び、つながりを広げています!

益田

教育事務所管内

みんなでつくる つながり広げる対話の場 「集まってみ ます(だ) か(のあし)」

社会教育士、社会教育主事有資格者を中心に、いろいろなところで活動、チャレンジしている人たち同士のつながり・学びの場として「集まってみますか」を開催しました。

第1部は、工藤勇一さんとニールセン北村朋子さんによる特別対談から学びをインプット。

第2部は、会場を変え、さらに学びとつながりを広げ深める時間に。第2部は参加者というよりも**全員が参画者**。企画の段階からそれぞれの「やりたい」「話したい」に手を挙げてくれた方を中心に、みんなの手で集いの場がつくられていくことに。ファシリは梶浦靖二さん(益田保健所)。石飛優志さん(柿木小)によるアイスブレイクもあり、終始温かい雰囲気が進んでいきました。第2部のオープニングは、田原俊輔さん(豊川小)と大畑元矢さん(高津小)の特別対談PARTⅡから。その後、スピーカー【根津優花さん(新潟の高校生)、小林千珠嘉さん・石川姫歌さん(つわのホイスコーレ)、大畑友喜さん(六日市小)、瀬戸里奈さん(財:つわの学びみらい)、藤岡篤司さん(NPO法人学習創造フォーラム)】からの問いをもとに、会場のみんなで**対話**をとおしてワイワイと楽しく、そして深く学ぶことができる時間になりました。ここでしかできない、**出会い・つながり・学び**があふれる貴重な場をみんなでつくることができました。



隠岐

教育事務所管内

【社会教育鼎談ライブ】 ～「話」から「輪」「和」「環」～

今年の隠岐の社会教育士等研修会は、「社会教育フェス2025in隠岐」と題して、「社会教育鼎談ライブ」を行いました。鼎談者は、県の社会教育行政に関わってきた知夫村副村長の前田秀典氏、学校籍の社会教育主事として県でも活躍された隠岐の島町立西郷小学校長の横田康氏、以前浜田市で公民館主事をし、今は西ノ島町や県で社会教育委員をしながら、医療現場で社会教育を実践している藤井礼子氏です。3人には、それぞれの立場で社会教育の成果や課題、隠岐の社会教育の魅力や今後について話していただきました。会場からも多くの質問や意見が寄せられ、正に双方向のライブ。参加者は、ライブを通して今までの自分と社会教育との関わりをふり返り、今後の業務等につなげることができたようです。



ライブ後の感想には、「学校や行政、地域や民間などの多様な主体が協働して連携していくことの大切さ」「行事の成果ではなく、参加者や地域の変化に焦点を当てたアウトカムの重視」「住民・職員・子ども・若者を含めた主体的な人材の育成」「立場を超えたネットワーク形成と対話の継続」などが記されていました。参加者が多くの学びを得た研修会。課題を魅力に変えてトライ&エラーで挑戦する。状況に応じて軌道修正。その修正をするために、日々の研修でアップデート。目的をもって学び続けていくことが新しい未来を創る。

来年の研修も「話」から「輪」「和」「環」を生み出していきたいです。

しまねの 人づくり 大交流会

11月15日・16日に三瓶青少年交流の家を会場に、「しまねの人づくり大交流会2025」が開催されました。15日は、栃木県立真岡工業高等学校校長の井上昌幸さんから演題「人づくり・つながりづくり・地域づくりを目指した社会教育の推進の方向性」のご講演をいただきました。参加者全員で講演についての感想交流・質疑応答を行い、その後、「ワールド・カフェ」を通して相互の活動理解を深めました。16日は実践発表が行われ、6実践が2会場で発表されました。



「地域づくりを担う人づくり」の取組が、多様なフィールドで、社会教育士等をはじめとする様々な皆さんによって組織的に展開されていることが紹介されました。

各会場ともに温かい雰囲気の中で交流が進むとともに、熱気を帯びた意見交換や感想交流が行われていました。

「しまねの人づくり大交流会」

詳細は、島根県教育庁社会教育課のHPから閲覧できます。



学びが チカラに!!

「子どもが主役となる活動を！
～参加型学習の手法を用いて～」

川本町立川本中学校 教諭
石田 卓也さん



社会教育研修センターの研修で学んだことを、地域や現場での実践に活かしていらっしゃる方を紹介します

川本町立川本中学校に教諭として勤務する石田さん。令和6年度に教職員フォローアップ研修(2年目)として、「ファシリテーター養成講座」を受講されました。講座での学びを日々の学校現場でどのように生かしていらっしゃるのでしょうか。今年度担任をされている2年生の授業実践を中心にお話を伺ってきました。

■ファシリテーター養成講座を受講して…！

「子どもたちが考えを伝え合う」「合意形成を図り、自ら動き出す」といった子どもたちが主役となり、主体的に行動する姿をめざしてファシリテーター養成講座の受講を決意しました。また、教職員フォローアップ研修(2年目)の選択研修の1つになっていたこと、普段関わりが多くない多様な業種の方と共に学ぶことができることも受講のきっかけとなりました。研修では、「参加者同士が交流しながら共に活動することで自らの気づきや変容を促す」といった参加型学習のよさやその様々な手法と特徴について知ることができました。また、学習プログラムを作成し、実際にファシリテートを経験をしたことで、「考えを肯定的に受けとめる」「フォロー役として支える」など、姿勢や関わり方についても考えるきっかけになりました。

■生徒もファシリテーターの一人！？自分たちでつくる学級目標！

「自分たちの考えをもとに話し合い、学級目標をつくることで、自分たちの学級をよりよくしていこうという意識をもって欲しい!」という願いのもと学級活動で学級目標づくりに取り組みました。まず、ラベルワークの手法を用いて「よいクラスとはどんなクラスか」という問いについて、一人ひとりが考えを付箋に書き出し、それをホワイトボードにはりながらグループで共有をしました。次に、出た考えについて「行動」「学習」「想い」などのテーマごとに分類しました。その後、各グループのホワイトボードを黒板にはり、全員で話し合う時間をもちました。



子どもたちがファシリテート!

黒板に各グループのホワイトボードをはると、自然と子どもたちが黒板の前に立ち、「大切にしたい考えや言葉はありますか?」「よいクラスにするために何が必要だと思いますか?」などと問いかけながら子どもたちのファシリテートによって話し合いが進んでいきました。最終的に、「今日より明日、明日より明後日!笑っていこう!」という学級目標に決定しました。



グループでラベルワーク

■ファシリテーターの姿勢を大切に子どもたちと学び続けたい!

今回の実践において工夫したことが2つあります。1つ目は、ラベルワークの手法を取り入れたことです。付箋に書いて共有するので、自分の意見をもって話し合いに参加でき、書いた内容が付箋に残るので考えを深めたりまとめたりするのに役立ちました。2つ目は、考えを肯定的に受けとめる声かけや話し合いを促す声かけをしたことです。これらの工夫をしたことで、全体で話し合う場面において、自然と子どもたちが前に立ち、ファシリテートする姿につながりました。結果として、話し合いの進行を子どもたちに委ねました。上記のことを意識して取り組んだことで、「学級目標を意識するための掲示物を作成する姿」「学級目標をふり返し、よりよくしようと行動する姿」など、授業後の姿からも子どもたちが主役となって学級目標を決めた、その過程に価値を感じると同時に大きな喜びを感じました。今後もファシリテーターとしての姿勢を大切に、子どもたちが主役になる場面を創っていきたいと思います。



学級目標の掲示物作成

「子どもたちを主役に!」という思いと授業の在り方や子どもたちへの関わり方をよりよくしようと学び続ける姿勢が主体的な活動につながったのではないのでしょうか。今後もファシリテーターとしての姿勢を大切に石田さんの実践を応援しています。

「地域学校コーディネーターとしての役割」

松江市教育委員会 湖南学園地域学校コーディネーター 高橋 一平

私が活動させていただいている、ここ湖南学園は、幼保から小中高、大学までが点在する大変恵まれた教育環境にあります。私はこの地域の学校コーディネーターとして、「地域のジュニアリーダー」となる中学生をはじめとした、子どもたちが主体的に活躍できる場を創り出すことに力を注いでいます。この環境を活かし、中学生、高校生、大学生が地域の中で協働して取り組む時間を作ることにより、その姿は、幼保小の子どもたちにとって憧れの存在になると共に、大人たちにとっても頼りになる仲間として地域活動の基盤を担ってくれています。

子どもたち一人ひとりの思いを丁寧にかたちにし、地域社

会の中で自ら考え、行動する力を育てていく、そのために学校と地域をつなぐ橋渡しとなる活動を実践しています。若者がいきいきと貢献する姿を地域の皆様に見ていただき、互いの理解が深まることで、世代を超えた信頼関係が生まれます。そして、その関係性こそが、地域の未来を支える確かな土台になると信じています。

私たち湖南学園では、学校と地域が真正面から向き合い、共に考え、共に行動するコミュニティの形成を目指しています。この地域ならではの教育の輪を、次世代につながる持続可能な形で広げていく、そのビジョンの実現に向けて、今、動き出しています。



こなんフェスタ実行委員会の様子



こなんフェスタ当日の様子

湖南中学生が中心に実行委員となって開催した『こなんフェスタ』では、30人の中学生を含めた約100人のスタッフが、600人を超える参加者を笑顔いっぱいしてくれました。高橋さんは、「楽しい」を大事にしながらつながりづくりを支え、たくさん子ども(若者)たちが地域で活躍できるようになってきています。今後さらに、子ども(若者)たちの地域活動を支え、一人ひとりの成長を見守る地域の大人の輪を広げ、楽しみながら伴走支援を続けてほしいと願っています。

(松江市教育委員会 派遣社会教育主事)



社会教育の実践紹介



六日市のチャレンジがつながった夏「プレゼンでござる」

吉賀町教育委員会 コミュニティ・スクールサポーター 坂田 美生

六日市公民館主事から、地域会議で「地域の人のでやってみたいが叶う場を作りたい」という話を聞き、主事と一緒に二人三脚で進めた取組を紹介します。

今年度六日市中学校では、中学生が主体的に町に関わるしくみを作りました。その一環として町の祭に様々な形で関わります。大胆なチャレンジです！

その中学校の先生も参加した地域会議で、意志ある所にお金が渡るよう予算を組みたいね！と話が盛り上がりました。そこで中学校のチャレンジを応援できるしくみを地域会議で考えることになりました。そして生まれたのが「プレゼンでござる」です。

中学生が、祭でやりたいことを参加者の前でプレゼン。参加者は、応援したい人に1票を投票。すぐに開票し、得票数の多かった人が資金を獲得するしくみです。



参加者の前でプレゼンする中学生

学校・中学生・地域会議のチャレンジがつながった「プレゼンでござる」は、様々な世代の人が集まり、やりたいを応援する温かい時間となりました。多様な立場の人が関わるからこそその大変さもありませんが、それ以上に一緒にやり遂げた時間が宝物となりました。



地域会議のメンバーがその場で開票

吉賀町では、子どもたちが学び育つ環境をみんなで作ろうと日々連携・協働を進めています。六日市地区のこの取組は、「チャレンジあふれる地域にしたい」という思いのもとに地域の多様な主体が1つになり成し遂げました。そこでは、公民館の向井主事と坂田CSサポーターがその思いを丁寧に引き出しつなげ、伴走することで大人たち自身もこの取組にチャレンジすることができました。大人の姿から中学生が学び、中学生の姿から大人たちが感化される。育ちの環境づくりの一步となる取組です。

(吉賀町教育委員会 派遣社会教育主事)

NEW

「公民館等実態調査」から見えてきた課題を切り口に
～地域における必要課題の解決を目指して～

みんなでトライ! 公民館等職員 必要課題研修

《 地域防災 》

講師紹介

島根県
中山間地域研究センター
企画情報部 地域研究科
主任研究員



あずま りょうた
東 良太 氏

目的・趣旨

今年度から“地域における必要課題の解決を目指して”と題し、公民館等職員が地域の課題を認識し、その課題を解決するための実行力を高めることを目的とした研修講座を企画・実施することとしました。

社会教育研修センターでは、毎年「公民館等実態調査」を実施しています。調査によると、各館が把握している地域課題は、『防災意識の高揚』『世代間交流』などが挙がっています。

そこで、初年度は『地域防災』を切り口として、それぞれの地域の「必要課題」を認識し、課題解決の糸口を見つけること。そして、その学びを通して、“人づくり”“地域づくり”について考えることに“トライ!”しました。

研修の概要

【西部会場】9月3日(水) 浜田合庁
【東部会場】9月17日(水) 雲南合庁

9:00	9:30	9:40	10:40	11:20	12:00	13:00	14:30	15:05	15:30
受付	開講行事	【講義①】 安心して暮らし続けるための地域づくり (50分)	【講義②】 地域づくり × 防災 (30分)	【演習①】 地域課題(必要課題)の見極め (40分)	昼食 休憩	【演習②】 自館の地域課題(必要課題)の認識と対策は? (90分)	ふり返り	閉講行事	

研修参加者の声

- 初めて聞く言葉も多く、とても勉強になった。防災だけでなく、人とのつながりをしっかり意識して事業を行っていきたいと思った。
- 東先生のお話は、初めてお聞きする内容もあり、大変勉強になった。午後からのグループワークも、グループのみなさんがとても的確なアドバイスをくださって、ぜひ今後の活動に活かそうと思った。
- 地域づくり=防災、減災につながることを確認できた。これから次の世代にどうタスキを渡していくか、参考にさせていただきます。



■ 課題をかかえた変わりつつある地域に、仲良く楽しく住み続けるための具体例など、とても参考になった。年代別のワークショップのアイデア、思いを取り込める環境づくりに心を動かされた。

研修を終えて

「災害に強い地域は、平時からも強い地域」、「課題解決の早道は、『今ある活動』の棚卸し・重ね合わせ・リノベーション」など、講師からたくさんのヒントをいただきました。「地域を『鳥の目』で見る(俯瞰する)」ことは、必要課題の解決にもつながるように思います。参加される皆様の実践に生かされることを願っています。次回の参加をお待ちしております。(レポーター 藤井)



ご意見・ご感想

読まれた感想やご意見などございましたら、ぜひお寄せください。今後のより良い紙面づくりに生かしていきます。なお、入力期限は次号発刊までとします。



東部社会教育研修センター

〒691-0074
出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380

URL:https://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoku/
E-mail:tobu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp.

西部社会教育研修センター

〒697-0016
浜田市野原町1826-1 いわみーる3F
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345

URL:https://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoku/
E-mail:seibu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp.

第43号は 9月末 発行予定



「親学プログラム」
「地域魅力化プログラム」



※当センターホームページから閲覧ダウンロードできます。